

庄内協同ファームだより

No.148 2013年11月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonaifarm.com>



くい掛けの田んぼ

黄金色の穂波にゆれていた庄内平野は、刈取りもほぼ終わり、稲の株に青くヒコバエ（稲がもう一度生えて来る）が見え始めています。

激変に悩まされた今年の天候です。

春先四月は雨がちで、やっと耕起作業を終え田植えまで漕ぎ着けたと思ったら、六月は全く雨が降らず、枝豆の定植に苦労しました。七月は一転連日の雨で、洪水による冠水の影響で、畑の枝豆の枯れや、稲の葉の徒長（長くなりすぎ倒伏の危険が増す）が見られました。八月は比較的順調な天候でしたが、九月は台風の影響で稲が倒伏し、稔りが心配されました。しかし、

それ以降は好天続きで無事刈り取りも完了し、今は刈り作業の最中です。

幸い収穫量は例年より少し多く、米質も良好のようです。

天気に虐められ、逆に天気に助けられ、また作物の適応力の強さに驚き、自然に生かされている農業の宿命を改めて感じています。

しかし、豊作も喜び半分で、米の価格が昨年から1俵60kg 2千円ほど値下がりがりし、農協や業者販売の農家は、4ha規模で60万円以上の収入減となり頭を痛めています。

私達庄内協同ファームの農産物の流通は消費者の皆様との産直提携により、価格の急激な変動は無く、お蔭様で経営の見通しが立ち、専業農家として家庭を支えることが出来ました。そして、多くの組合員から後継者が生まれ、次代への継承が出来つつあります。

また、経営者である理事も2代目の若手に代わり頑張っています。

庄内協同ファームは今年で法人設立25年目を迎え、来年六月には、25周年記念事業を予定しています。

産直提携は法人設立の10数年以前から、任意グループ「庄内農民レポート」として実践してきました。若くバリバリの30歳前後の仲間たちが集まり、白熱した議論を交わしながら、何とか現在まで続けてきました。私は今年の9月で満65歳に成りました。あつという間の30数年、まさしく光陰矢の如しです。

これからは、若手の足を引っ張らず、高齢化社会のお荷物にならないよう、少しは社会の役に立って、生涯現役を続けていきたいと思っています。

芳賀修一

～稲刈り交流を終えて～

実りの秋、米処庄内。一面に広がる黄金色のじゅうたんが一つ、また一つ茶色に変わっていくこの季節。各地で鳴り響く機械音と喜びの声と、独特な甘いほのかな香りがこの地域を包みます。



9月29日、取引先生協の皆さんと庄内協同ファーム、JAたがわとの共同開催で、10年目となる稲刈り交流が開催されました。今年5月の田植え交流会で「つや姫」を手作業で植えました。長く有機栽培をしている圃場で、合鴨農法をしていましたが、ここ数年、カモは外敵の被害を受けており、色々な不安の中、みんなで作ったものを預かる身として改めて気を引き締め管理に臨みました。今年是非常に不安定な天候でしたが、カモも順調に仕事をしてくれ、みんなの

気持ちがかもった稲は、すくすくと成長しました。太く立派な稲穂をなびかせる姿を見たときは本当にホッとしました。



当日は、心地よい風が吹く快晴で、稲刈りには最適な日となりました。刈り取りも手作業で行い、鎌を初めて握る人、もう何年も交流会に参加している人、地元の若手農家、ベテラン農家、みんなで作業していきました。「むがしは、全部手刈りで大変だっけえ〜」と話しながら、魔法のように、3〜4株をシュッと束にしていくベテラン農家さんたちを真似、笑い声が響き渡る中、あっという間に10aの稲穂は、すっきりと20本の杭にかけられました。2週間程自然乾燥されお米となります。そのあとは、みんなで収穫の喜びとお酒を交わしながらの交流会を楽しみました。



この交流会を終え、感じたこと。まず、機械化によりなかなか手刈りや自然乾燥をやらなくなっている時代ですが、エネルギーや道具をほとんど使わず収穫作業ができること、このやり方をいざという時に知っているか、出来るかを感じられたのは重要なことだと思いました。また改めて、皆さんとの交流はもちろん、ベテラン農家の方々の想いや技術を聞けるいい機会であると思いました。

これから庄内には冬が訪れます。また来年も美味しいお米がとれるようにと想いながら、ちょっと一息、温泉につかりたいと思います。

(小野寺紀允)

よろしくお願いします！ 新組合員です

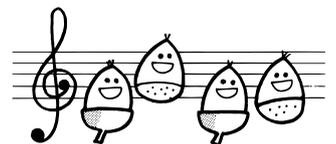
いがらし ゆうき
五十嵐勇輝

この度、組合員となりました五十嵐勇輝と申します。主に栽培作物は水稲と枝豆で、水稲は約6.7ヘクタール作付けしています。水稲の約半分は有機栽培で、アイガモや紙マルチで除草しています。特にアイガモ農法はカラスやキツネ等の外敵が多く、毎年苦労していますが、品質のよい作物を作り続けていけるよう努力していきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いします。



なかむら あきら
中村 全

この度、組合員となりました庄内町の中村全と申します。農業をはじめ、2年目の新米農家です。農業に関しましては、殆んど素人ですので皆様のご指導の下、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いします。



年末年始に

おもち

秋の穫り入れも、順調に進みほつとしている今日この頃です。今年は、6月から7月にかけての大雨、長雨、日照不足、9月は台風の襲来といういろいろな事がありました。稲はしっかりと稔ってくれました。私たちのもち米（でわのもち）も平年作が期待できそうです。白鳥が飛来し、秋も深まるこれから、もち加工が本格的に始まります。作業員の方も徐々に増え活気にあふれます。安心、安全にこだわり栽培された有機のもち米、できる限り農薬を削減して栽培されたもち米が収穫されました。これらの原料を使い、香ばしい玄米もち、独特の風味のあるよもぎもち、黒豆もち、定番の白もちに搗きあげます。1年間の苦労や無事に農作業ができた事に感謝しながらおもちをいただきます。と思っています。



どうぞ今年もおいしいおもちを是非ご賞味ください。

北限の柿 庄内柿



庄内で栽培されている柿の代表品種は『平核無』です。四角形がはつきりしていて、しかも上部が平らなこと、種がないことからこの名前がついたと思われる。秋田や青森では柿はほとんど栽培されていませんし、『富有柿』

などの甘柿を庄内（山形県）で栽培してみてもその年の天候によって甘柿になつたり、渋柿になつたりするところを見るとやはり柿の北限の地ということになると思われます。『平核無』は渋柿でこれを干し柿や渋抜きをして毎年秋の味覚として味わうことを考えた先人の知恵はさすがです。また、種のない柿を接ぎ木によって増殖してきたその努力も称えられるべきものと思います。庄内協同ファームでは20年以上前から柿の減農薬栽培に取り組んでいます。冬、雪の中の剪定に始まり、6月の摘蕾や摘果作業、暑い季節の草刈、傾斜地を上り下りの収穫作業と柿栽培はなかなかの重労働です。肥料は自家製の有機肥料のみ、農薬は県の栽培基準の50%以下（8成分）に抑え、生理落下や円星落葉病に悩みながらも、現在では周辺の慣行栽培に劣らない、甘くておいしい柿が収穫できるようにになりました。庄内を代表する秋の味覚「庄内柿」をどうぞご賞味ください。生産者 志藤知子

イベント開催のご案内

下記の予定で庄内協同ファームのメンバーが出展します。消費者の皆さんと直接お話しができる数少ない機会に私達はとても楽しみにしております。

当日、試食販売も行います。価格は各会場でのお楽しみですが、すこおしお安くなっているかもしれません。もしお時間がありましたらお越しください。



お待ちしております！

10月27日	10:00~15:00	宮城県仙台市若林区卸町2-15-2 仙台市卸商センター産業見本市会館サンフェスタ1階
10月27日	10:00~15:00	千葉県野田市鶴奉5-1 野田市文化会館
11月2,3,4日		神奈川県藤沢市 湘南モールフィル
11月4日	10:00~15:00	山形市平久保100 山形ビッグウイング
11月9日	10:00~14:00	京王相模原線 南大沢駅前 南大沢中郷公園
11月9日	10:00~14:00	千葉市新港1-1 千葉ポートパーク円形広場
11月24日	10:00~14:00	福島県郡山市南2丁目 ビックパレットふくしま多目的展示ホールA

ペンリレー 徒然草

菅原孝明



拝啓 佐高信様
講演を受けて
いただくまで

2012年11月

庄内協同ファームをつくり25年になり
地域にも一定の影響を持し組織になり
ました。私の勝手な思い込みで失礼な言
い方ですが、たまたま庄内農業高校時代、
先生の有機物に影響を受けた教え子が
メンバーに数人いました。それを熟成発
酵させて堆肥にし、今があるように思い
ます。

そこでお願ひがあります。私たちが作
り上げてきた組織の総括と引継ぎをか
ねて記念事業を計画していますので記
念講演をお願いいたします。
2013年9月



飛来したコウノトリ

稲刈りが始まりました。庄内は台風
大雨が運良く避けて豊作の予感がしま
す。政府自民党のTPPの参加表明でう
るたえてはいただけません。消費者に支
持され理解される持続可能な農業を
進めるしかありません。前にお願
いしました25周年記念事業の講演
についてお知らせいた

します。2014年6月27日に行つ予
定です。参集範囲は全国の取引先消費
者と地元農家です。
35年前庄内農民レポートを発行し、
古農からの聞き取り・乾田馬耕のころ・
三里塚そして庄内・2次減反考える等
学習活動と経済活動を基に、自立した
農家を目指し農事組合法人庄内協同フ
アームを設立しました。環境に配慮した
農業を基本にがむしゃらに走ってきた我々
第一世代は組織の卒業の時期となり、こ
れを期に次の世代に対するメッセージを
送ってほしいのです。

次世代に残す、そんな感で先生の自
由な毒のあるお話を期待します。

追伸

田んぼは農産物を生産する場所だけ
ではなく水生生物(トンボ・イトミミズ・
蛭等)を育む場所であることを証明する
ために、消費者・子ども達と『生き物調
査活動』を続けてきました。3年前から
は、転作田の麦畑の連作障害対策と夏の
渡り鳥の休憩場所確保のために7月に
代掻きして水を張る『夏水田んぼ』を始
めました。夏水田状態にすることで水生
生物が爆発的に増え、それを食べに夏の
渡り鳥シギ7種類、チドリ数種が飛来
します。

農地は生産手段としか見えなかった
過去が長かった...
9月初めにうれしいことがありまし
た。なんと『コウノトリ』1羽が舞い降り

たのです。豊岡ではなく中国からの訪問
者でした。
2013年10月

講演を引き受けて頂きありがと
うございます。

庄内は稲刈りが終わった田んぼに白鳥
が飛来し始めました。豊作で米価の下
落が心配です。

政府は予想どおりTPPで農産物重
要5品目を譲歩の切り札のとして使つ
ようです。参院選挙で脅しに屈しなか
た山形の農協政治連盟への報復として、
農協手数料に対して独禁法に関する監
査調査は露骨でした。

われわれ農家は100倍返しだ...

敬具

「働く農機具」 コンバイン



現在の収穫作業の主流
になっているのが、コンバ
インでの刈取り作業です。
稲を刈りながら脱穀し、籾
はグレンタンクに溜められ、
ワラはカッターで切られて
圃場へ拡散されます。

たまった生籾は、作業場に運搬され次
の工程の乾燥作業へと進みます。

あつがき



庄内平野も辺り一面黄金色に輝き、
只今稲刈りの真っ最中！時はまさに収
穫の秋です！農家にとっては一番忙し
い時期であると同時に一番嬉しい時で
もありません。収穫の喜びを噛み締めつ
つ毎日農作業に汗を流しつつ、忙しく
過ごしております。

この時期、農産物の収穫時期に重なる
秋の行事と言えば秋祭り・収穫祭で
す。日本を問わず世界中のどこの農村
でも収穫時期には行われております。

日本で一番有名で歴史が深い収穫祭
といえば、「新嘗祭」があります。古く
からの重要な宮中祭儀であり、八百万
の神々に農作物の収穫を感謝すると
もに、天皇自らも初めて召し上がれる
祭典です。今では勤労感謝の日と名を
変え「勤労を尊び、生産を祝い、国民
がたがいに感謝しあう」日となりまし
たがその本質は同じと言えます。

今年も美味しいお米が沢山とれまし
た！今日もお米が頂けることを「あた
り前」とは思わず、食物の大切さとあ
りがたさを改めて実感しつつ新米を食
べたいと思います。皆様にもこの喜び
を味わってもらえたらいいなあ。

(白)